

令和7年度

昭島市立昭和中学校

学校経営重点計画(教育推進計画)計画表

学校教育目標	夢への挑戦 ～ 広げよう可能性 高めよう創造性 ～	ビジョン	【目指す学校像】	(1) 知・徳・体をバランスよく育む学校。(2) 人間環境・生活環境が整った安心・安全な学校。(3) 元気な挨拶や歌声が響く活気ある学校 (4) 家庭・地域とのつながりを大切にする学校。
			【目指す児童・生徒像】	(1) 自ら考え深く学ぶ生徒。(2) 自他ともに大切にできる生徒。(3) 自分を表現しつつ互いに認め合える生徒。(4) 社会性が身についている生徒。
			【目指す教師像】	(1) 豊かな人間性を備え、生徒の班となれる教師。(2) 生徒と正面から向き合い、信頼される教師。(3) 授業力が高い教師。(4) 組織の一員として学校運営に貢献できる教師。

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組目標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎的・基本的な知識や技能の習得、思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学ぶ態度の育成と学びに向かう力と人間性等を養う。	教師・生徒共に授業規律の維持・向上を図る。	①全授業で昭和中学校授業スタンダードの実践徹底。	4「授業スタンダードによる働きかけを毎時間実施。 3「授業スタンダードによる働きかけをおおむね実施。 2「授業スタンダードによる働きかけを時々実施。 1「授業スタンダードによる働きかけがほぼ未実施。		4「楽しくも規律がある授業である」90%以上。 3「楽しくも規律がある授業である」70%以上。 2「楽しくも規律がある授業である」50%以上。 1「楽しくも規律がある授業である」50%未満。					
		思考力・判断力・表現力の育成を図り、自分の考えを他者に伝える力を育む。	①話し合い活動と発表を全授業での実施。 ②ICT活用から思考力を育む授業を時々実施。 1「ICT活用から思考力を育む授業がほぼ未実施。	4「ICT活用から思考力を育む授業を毎時間実施。 3「ICT活用から思考力を育む授業をおおむね実施。 2「ICT活用から思考力を育む授業を時々実施。 1「ICT活用から思考力を育む授業がほぼ未実施。		4「表現力がついた」と答える生徒が90%以上。 3「表現力がついた」と答える生徒が70%以上。 2「表現力がついた」と答える生徒が50%以上。 1「表現力がついた」と答える生徒が50%未満。					
		主体的に学習に取り組む態度の育成と家庭学習の定着を図る。	①シラバスの作成。 ②シラバスに基づく定期テスト前の学習方法の確認の実施。	4「家庭学習推進の指導を確実に実施。 3「家庭学習推進の指導をおおむね実施。 2「家庭学習推進の指導を時々実施。 1「家庭学習推進の指導がほぼ未実施。		4「家庭学習の時間が「4時間以上」が最も多い。 3「家庭学習の時間が「4時間未満」が最も多い。 2「家庭学習の時間が「3時間未満」が最も多い。 1「家庭学習の時間が「2時間未満」が最も多い。					
豊かな心	全教育活動を通じて、人権教育・心の教育を推進し、自立した人間として、他者とともによりよく生きるための基盤となる豊かな人間性を育む。	全教育活動を通じて生徒自身が自分を表現し、互いに認め合えるようにする。	①勇気づけ言葉を活用し、頑張らせ、勇気づけ、ほめる指導の実践。	4「勇気づけ言葉を積極的に活用。 3「勇気づけ言葉をおおむね実施。 2「勇気づけ言葉を時々実施。 1「勇気づけ言葉をほぼ未実施。		4「学校はあたたかい雰囲気である」と感じる生徒が90%以上。 3「学校はあたたかい雰囲気である」と感じる生徒が80%以上。 2「学校はあたたかい雰囲気である」と感じる生徒が50%以上。 1「学校はあたたかい雰囲気である」と感じる生徒が50%未満。					
		考え、議論する道徳授業を実践し、よりよく生きる心を育てる。	①内容項目の理解から議論や発問の工夫。	4「考え、議論する道徳授業を毎回実施。 3「考え、議論する道徳授業をおおむね実施。 2「考え、議論する道徳授業を時々実施。 1「考え、議論する道徳授業がほぼ未実施。		4「道徳の授業を生活に活かしている」生徒が80%以上。 3「道徳の授業を生活に活かしている」生徒が70%以上。 2「道徳の授業を生活に活かしている」生徒が50%以上。 1「道徳の授業を生活に活かしている」生徒が50%未満。					
		未然防止に努めながら、いじめへの適切な対応を充実させる。	①安全集会による未然防止の指導の実施。 ②毎月の生活アンケートの実施と校内委員会の定期実施。	4「いじめへの連携した早期対応を十分に実施。 3「いじめへの連携した早期対応をおおむね実施。 2「いじめへの連携した早期対応ができない時があった。 1「いじめへの連携した早期対応が不十分。		4「落ち着いて安心して学校生活が送れている」生徒が90%以上。 3「落ち着いて安心して学校生活が送れている」生徒が80%以上。 2「落ち着いて安心して学校生活が送れている」生徒が70%以上。 1「落ち着いて安心して学校生活が送れている」生徒が70%未満。					
健やかな体	心身共にたくましく、健やかな生徒の育成を図り、健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う。	体育的な活動を効果的に実施し、体力向上と生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育成する。	①体力向上に係る個人目標の設定。 ②体育祭等で工夫した活動の推進。	4「積極的な体育活動への参画に向けた指導を十分に支援。 3「積極的な体育活動への参画に向けた指導をおおむね支援。 2「積極的な体育活動への参画に向けた指導がやや不十分。 1「積極的な体育活動への参画に向けた指導が不十分。		4「体力テストで全学年が都標準以上。 3「体力テストで2つの学年が都標準以上。 2「体力テストで1つの学年が都標準以上。 1「体力テストで全学年が都標準未満。					
		安全教育・防災教育を推進し安全意識・防災意識の向上を図る。	①安全指導・避難訓練を月に1回ずつ定期実施。 ②セーフティ教室・災害安全講演の実施。	4「計画的な安全指導を十分に実施。 3「計画的な安全指導をおおむね実施。 2「計画的ではなく時々実施。 1「計画・実施ともに不十分。		4「防災の知識が身につく意識が高まった」生徒が90%以上。 3「防災の知識が身につく意識が高まった」生徒が80%以上。 2「防災の知識が身につく意識が高まった」生徒が70%以上。 1「防災の知識が身につく意識が高まった」生徒が70%未満。					
		疾病や事故などの未然防止の指導を充実させ、予防に向けた知識と実践力を高める。	①保健だよりを用いた熱中症や感染症の予防の指導の実施。	4「予防と対応の指導を毎月実施。 3「予防と対応の指導をおおむね実施。 2「予防と対応の指導を時々実施。 1「予防と対応の指導が不十分。		4「予防の知識が身につく意識が高まった」生徒が90%以上。 3「予防の知識が身につく意識が高まった」生徒が80%以上。 2「予防の知識が身につく意識が高まった」生徒が70%以上。 1「予防の知識が身につく意識が高まった」生徒が70%未満。					
輝く未来	学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係を築き、生徒一人一人に応じた指導・支援を図る。	3年間の系統だったキャリア教育の実施から、夢や目標に向けて努力する力を養う。	①適切な進路指導計画の作成。 ②計画的で丁寧なキャリア教育の推進。	4「計画的な進路指導を十分に実施。 3「計画的な進路指導をおおむね実施。 2「計画的ではなく時々実施。 1「計画・実施ともに不十分。		4「夢を描き、将来を考えている」生徒が80%以上。 3「夢を描き、将来を考えている」生徒が70%以上。 2「夢を描き、将来を考えている」生徒が50%以上。 1「夢を描き、将来を考えている」生徒が50%未満。					
		生徒個々に寄り添い、生徒自ら適切に進路を選択して努力できる力を養う。	①生徒の個別指導の計画的な実施。 ②三者面談による保護者との連携。	4「生徒や保護者に寄り添う指導を十分に実施。 3「生徒や保護者に寄り添う指導をおおむね実施。 2「生徒や保護者に寄り添う指導を時々実施。 1「生徒や保護者に寄り添う指導が不十分。		4「先生は相談に乗ってくれる」と答えた生徒が90%以上。 3「先生は相談に乗ってくれる」と答えた生徒が80%以上。 2「先生は相談に乗ってくれる」と答えた生徒が70%以上。 1「先生は相談に乗ってくれる」と答えた生徒が70%未満。					
		生徒理解に基づき、個への配慮が必要な生徒への支援を充実させる。	①特別な支援を要する生徒への子に応じた対応の確認・共有。	4「特別支援教育の啓発と推進を十分に実施。 3「特別支援教育の啓発と推進をおおむね実施。 2「特別支援教育の啓発と推進を時々実施。 1「特別支援教育の啓発と推進が不十分。		4「先生は一人一人を理解しようとしている」と答えた生徒が80%以上。 3「先生は一人一人を理解しようとしている」と答えた生徒が70%以上。 2「先生は一人一人を理解しようとしている」と答えた生徒が60%以上。 1「先生は一人一人を理解しようとしている」と答えた生徒が60%未満。					